

## 県内9校NIE報告集

# 論



新聞を教育に活用するNIEで、福井県内の実践指定校の本年度報告集がまとまった。この中で県NIE推進協議会の松友一雄会長(福井大教授)は、教育現場でNIE活動の学習効果が重要視されるようになってきたと指摘している。

実践校小中高9校では現場の意識も高く、意欲あふれる授業を展開したことが見てとれる。児童生徒の成長につながることを期待したい。

報告集の実践例では、ある小学校は社会科で昨冬の

福井豪雪の際、店に品物が届かなかったという記事を使い、物流の大切さを学んだ。中学校の人權教育ではハイチ系米国人の父と日本人の母を持つテニスの大坂なおみ選手の記事から、国籍にとらわれずにアイデンティティーを尊重する大切さを勉強した例があった。実際に起きたことや事実を新聞記事から読み取り教科書と併用することで、子どもの学びがより深まる。NIEならではの効果といえる。

各校には継続的な取り組みを期待したいところだ。NIEの良さを松友会長は、子どもたちが福井の豊かさや素晴らしさを実感する機会が得られることという。郷土の文化や暮らしを伝える記事や、まちづくりに取り組む人々の記事などに接することで、児童生徒は故郷に愛着を持つ。高校では、記者を招き地元企業の活動について学んだ実践校もある。

## 意欲的実践 広がりに期待

指導する側の態勢についても、いくつか目を引く報告があった。授業で使えそうな記事をパソコンで管理し全教諭が閲覧できるようにしたり、職員室の中央にファイルした新聞記事を置くスペースを設けたりすることなどがあがるだけに、

人口減少社会の中で若者の県外流出は大きな課題。高校は進学や就職といった進路を決める大切な時期だけに、実践校にとどまらない、NIEのより広い浸透を望みたい。

2019.3.12